# Optra Compute 500/550、Optra Compute CX1000/CX2000、Optra VZ1000/VZ5000/VZ5100/VZ6100

ユーザーズガイド

8月 2026

www.lexmark.com

# 目次

**安全に関する情報 ..... 4**
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 4
..... 5
**概要 ..... 6**
**デバイスの詳細 ..... 7**
Optra Compute 500/550 ..... 7
Optra Compute CX1000 ..... 9
Optra Compute CX2000 ..... 10
Optra VZ1000/VZ5000 ..... 12
Optra VZ5100/VZ6100 ..... 15
電源と設定ボタンのインジケータランプの状態について理解する ..... 16
**設定、設置、構成 ..... 18**
Optra Compute 500/550/CX1000 ..... 18
Optra Compute CX2000、Optra VZ1000/VZ5000/VZ5100/VZ6100 ..... 24
アウトバウンドネットワーク要件 ..... 34
**Optra Portal の使用 ..... 36**
Optra Portal でのデバイス登録 ..... 36
ワークフローの追加とスキルの展開 ..... 38
**トラブルシューティング ..... 40**
ポータルに接続できません ..... 40
デバイスを登録できません ..... 40

スキルを展開できません ..... 41
**追加設定 ..... 42**
デバイスを壁に取り付ける ..... 42
**通知 ..... 46**
製品情報 ..... 46
改訂通知 ..... 46
包装の環境ラベル ..... 47
製品の廃棄 ..... 47
Lexmark 製品のリサイクルプログラム ..... 47
Lexmark 製品の梱包材をリサイクルする ..... 48
ワイヤレス製品に関する規制通知 ..... 48
モジュールコンポーネントに関する通知事項 ..... 48
無線周波数の放射への暴露 ..... 48
複数のモデル情報 ..... 48
日本の VCCI 規定 ..... 48
電波障害について ..... 49
モデル固有の情報 ..... 49
日本の VCCI 規定 ..... 49

# 安全に関する情報

**警告 — けがの恐れあり**
火災や感電の危険を避けるため、電源アダプタや電源コードは製品の近くにあって定格が適切で、かつ正しく接地されているコンセントに接続します。

**警告 — けがの恐れあり**
火災や感電の危険を避けるため、製品に同梱されている電源アダプタや電源コード、または製造元の正規の交換品のみを使用してください。

**警告 — けがの恐れあり**
火災や感電の危険を避けるため、電源コードが電源アダプタのポートやデバイス本体に完全に取り付けられていることを確認してください。

**警告 — 感電危険**
感電の危険を避けるため、本製品を水に濡れる恐れのある場所に置いたり、そのような場所で使用しないでください。

**警告 — 感電危険**
感電の危険を避けるため、雷雨時には電気接続を行わないでください。

**警告 — けがの恐れあり**
電源コードを切断したり、結んだり、束ねたり、傷を付けたりしないでください。また、コードの上に重いものを置いたりしないでください。電源コードがこすれたり、引っ張られたりする状態で使用しないでください。電源コードを家具や壁などの間に挟まないでください。以上のことを守らないと、火災や感電の原因になる恐れがあります。電源コードが以上の状態になっていないか、定期的に確認してください。確認の前には、電源コードをコンセントから抜いてください。

**警告 — 感電危険**
デバイスの外部を清掃する際には、感電のリスクを避けるため、コンセントから電源コードを抜き、すべてのケーブルを外してから作業を行ってください。

**警告 — けがの恐れあり**
この製品に使用されているリチウム電池は、交換を前提としていません。リチウム電池の交換を誤ると破裂する危険性があります。リチウム電池の充電、解体、焼却はしないでください。使用済みのリチウム電池を廃棄する際は、製造元の指示およびお使いの地域の法律に従ってください。

このデバイスに Power over Ethernet（PoE） で電力を供給する場合、その回路を建物の外に設置してはいけません。本製品は、建物の外にある PoE 回路での使用を認められていません。

本機は、特定のメーカーのコンポーネントとともに使用した場合に、安全性に関する厳しい世界標準を満たすように設計、テスト、承認されています。一部の部品の安全性に関する機能は開示されていない場合があります。メーカーは、他の交換部品の使用については責任を負わないものとします。

取扱説明書に記載以外の事項については、サービス担当者にお尋ねください。

この手引きを常に保管してください。

# 概要

Lexmark™ Optra™ の製品ポートフォリオは、エンタープライズクラスの IoT エッジデバイスと管理ソフトウェアのパッケージです。各デバイスには、Microsoft Azure IoT Edge ランタイム環境と IoT 認証情報をあらかじめプロビジョニングしてあり、Lexmark のデバイス管理ポータルである Optra Portal にすぐに接続できます。このポータルは一連のインターフェイスをホストしており、デバイスのグループに「スキル」をインストールして、特定の機能を実行できます。

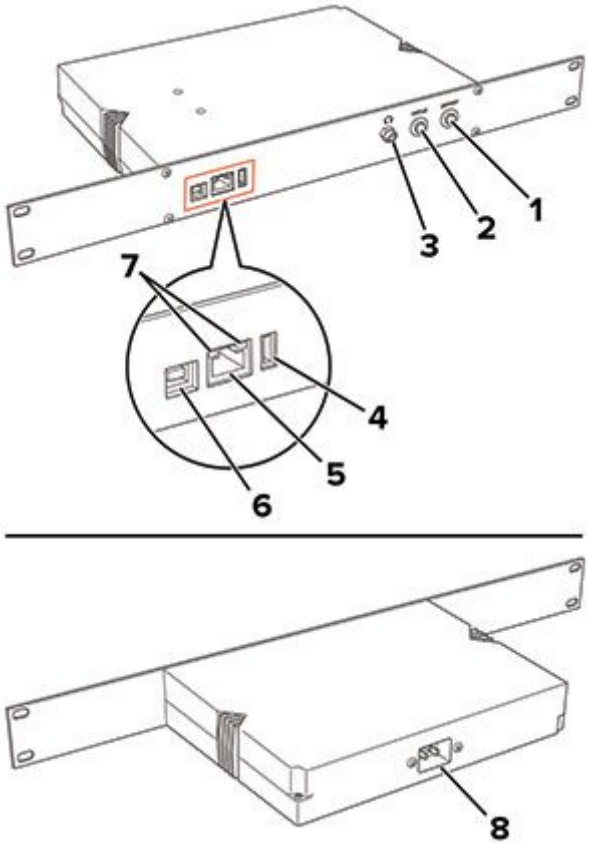
開発者は、Docker のコンテナ化プラットフォームでこれらのスキルをコンテナとしてパッケージ化できます。そのコンテナは、デバイスの基盤となる一連のハードウェアへのアクセス権を与えられます。

このドキュメントでは、デバイスの設定方法と使用方法、ポータルの使用方法について説明します。

# デバイスの詳細

## Optra Compute 500/550

**注意 — 破損の恐れあり**
データの損失やデバイスの誤動作を防ぐため、稼働中は USB ケーブルまたは以下のエリアのデバイスに触れないでください。

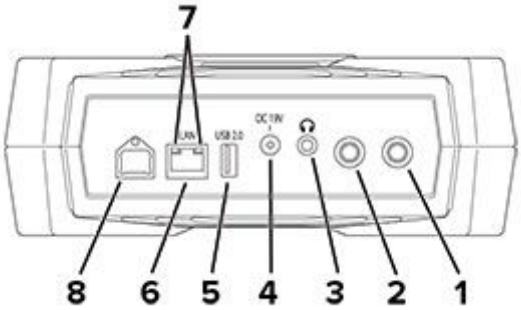



| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **1** | 電源ボタン | デバイスのオン/オフを切り替えます。 |

| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **2** | ［セットアップ］ボタン | • Optra Portal でデバイスを登録します。ボタンを軽く押してください。<br>• デバイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。デバイスがオンのときに、電源ランプが短い間隔で点滅するまでボタンを押し続けてください。 |
| **3** | ヘッドフォンジャック | ヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。 |
| **4** | USB ポート | フラッシュメモリや MarkNet™ ネットワークアダプタ（別売り）など、対応する USB デバイスを接続します。 |
| **5** | イーサネットポート | デバイスをネットワークに接続します。 |
| **6** | USB デバイスポート | デバイスをコンピュータに接続して Embedded Web Server (EWS) にアクセスし、オンデバイス設定を管理します。<br>利用可能な接続が Wi-Fi ネットワークのみの場合は、EWS を使用して Wi-Fi 接続を設定します。EWS を使用してイーサネットネットワーク設定を構成することもできます。 |
| **7** | イーサネットポートインジケータランプ | ネットワーク接続の状態を確認します。<br>**メモ**<br>• 左側のライトは接続を示しています。<br>• 右側のライトはアクティビティを示しています。 |
| **8** | 電源コードソケット | 正しく接地されているコンセントにデバイスを接続します。 |

# Optra Compute CX1000

**注意 — 破損の恐れあり**
データの損失やデバイスの誤動作を防ぐため、稼働中は USB ケーブルまたは以下のエリアのデバイスに触れないでください。

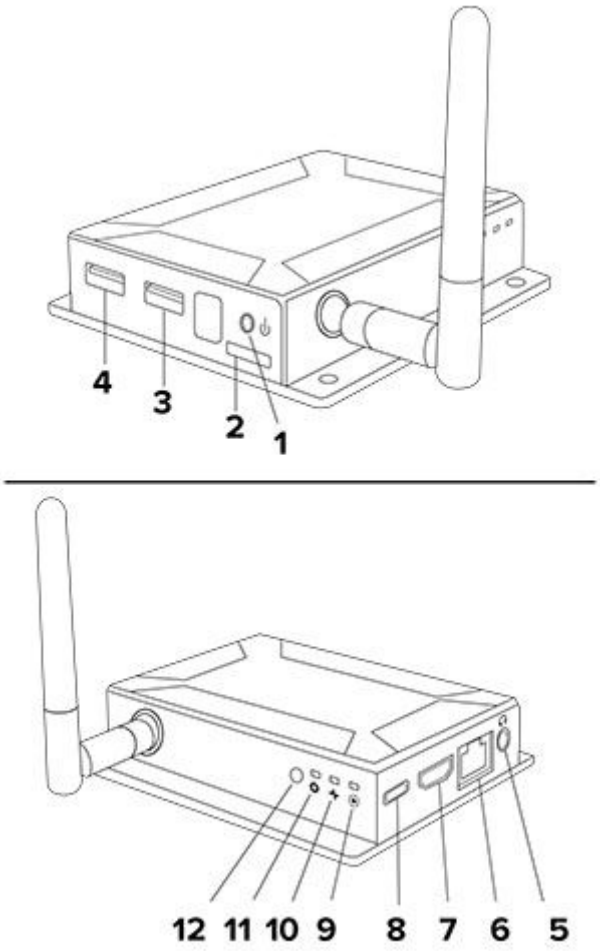



| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **1** | 電源ボタン | デバイスのオン/オフを切り替えます。 |
| **2** | ［セットアップ］ボタン | • Optra Portal でデバイスを登録します。ボタンを軽く押してください。<br>• デバイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。デバイスがオンのときに、電源ランプが短い間隔で点滅するまでボタンを押し続けてください。 |
| **3** | ヘッドフォンジャック | ヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。 |
| **4** | 電源アダプタポート | 同梱の電源アダプタをデバイスに接続し、正しく接地されているコンセントに差し込みます。 |
| **5** | USB 2.0 ポート | フラッシュメモリなど、対応する USB デバイスを接続します。 |
| **6** | イーサネットポート | デバイスをネットワークに接続します。 |

| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **7** | イーサネットポートインジケータランプ | ネットワーク接続の状態を確認します。<br><br>**メモ**<br>• 左側のライトは接続を示しています。<br>• 右側のライトはアクティビティを示しています。 |
| **8** | USB デバイスポート | デバイスをコンピュータに接続して Embedded Web Server (EWS) にアクセスし、オンデバイス設定を管理します。<br><br>利用可能な接続が Wi-Fi ネットワークのみの場合は、EWS を使用して Wi-Fi 接続を設定します。EWS を使用してイーサネットネットワーク設定を構成することもできます。 |

# Optra Compute CX2000

**注意 — 破損の恐れあり**
データの損失やデバイスの誤動作を防ぐため、稼働中は USB ケーブルまたは以下のエリアのデバイスに触れないでください。

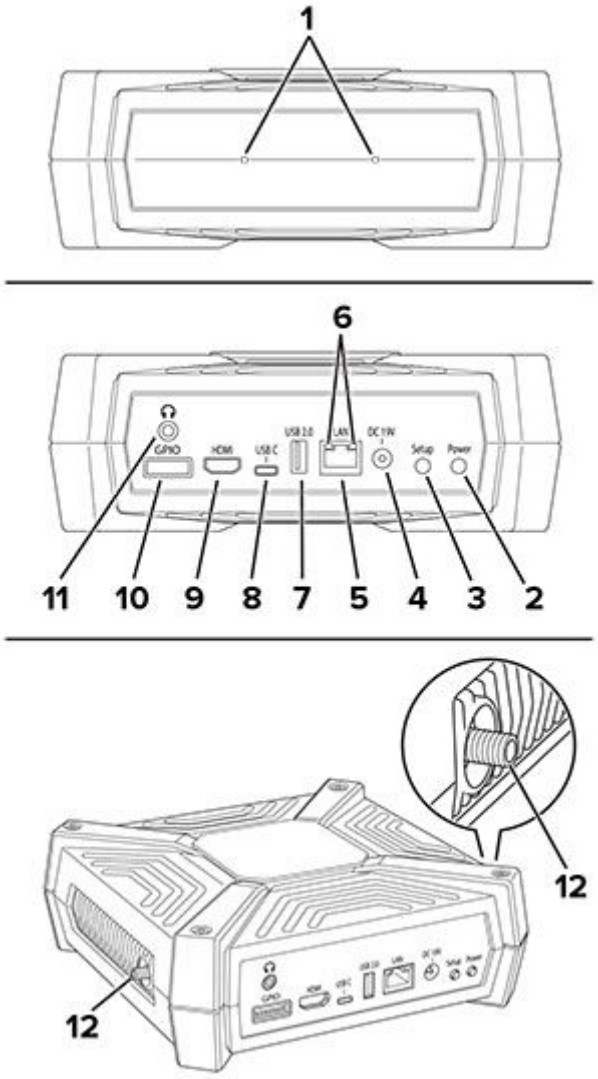



| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **1** | 電源ボタン | デバイスのオン/オフを切り替えます。 |
| **2** | SD カードスロット | デバイスのストレージ容量を拡張します。 |
| **3** | USB 2.0 ポート | フラッシュメモリなど、対応する USB デバイスを接続します。 |
| **4** | USB 3.0 ポート | • デバイスをコンピュータに接続して Embedded Web Server にアクセスし、オンデバイス設定を管理します。<br>• フラッシュメモリなど、対応する USB デバイスを接続します。 |
| **5** | ヘッドフォンジャック | ヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。 |

| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **6** | イーサネットポート | デバイスをネットワークに接続します。 |
| **7** | HDMI ポート | ビデオとオーディオ信号を HDMI モニターに送信します。 |
| **8** | USB Type-C 電源ポート | 同梱の電源アダプタをデバイスに接続し、正しく接地されているコンセントに差し込みます。 |
| **9** | スキルアクティビティインジケータランプ | スキルが実行中かどうかを確認します。 |
| **10** | デバイス状態インジケータランプ | デバイスの状態を確認します。 |
| **11** | 設定インジケータランプ | 設定プロセスの状態を確認します。 |
| **12** | ［セットアップ］ボタン | • Optra Portal でデバイスを登録します。ボタンを軽く押してください。<br>• デバイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。デバイスがオンのときに、電源ランプが短い間隔で点滅するまでボタンを押し続けてください。 |

# Optra VZ1000/VZ5000

**注意 — 破損の恐れあり**
データの損失やデバイスの誤動作を防ぐため、稼働中は USB ケーブルまたは以下のエリアのデバイスに触れないでください。

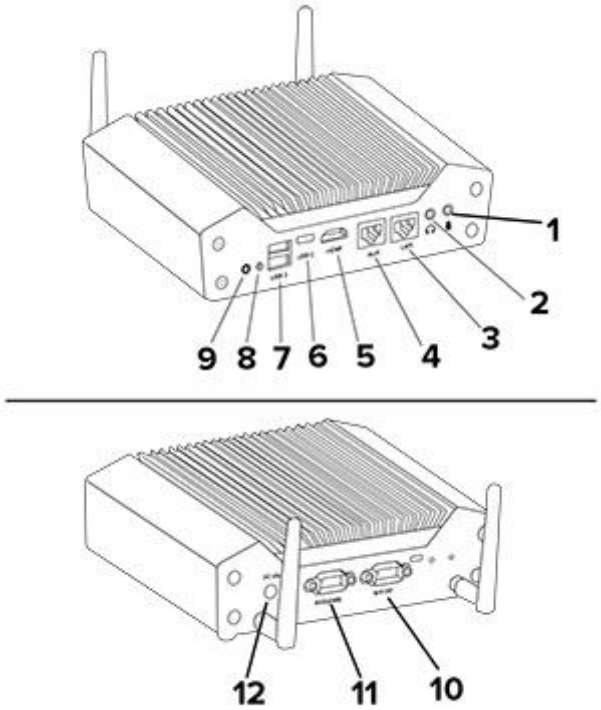



| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **1** | マイク | 音声を検出または録音します。 |
| **2** | 電源ボタン | デバイスのオン/オフを切り替えます。 |
| **3** | ［セットアップ］ボタン | • Optra Portal でデバイスを登録します。ボタンを軽く押してください。<br>• デバイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。デバイスがオンのときに、電源ランプが短い間隔で点滅するまでボタンを押し続けてください。 |

| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **4** | 電源アダプタポート | 同梱の電源アダプタをデバイスに接続し、正しく接地されているコンセントに差し込みます。 |
| **5** | イーサネットポート | デバイスをネットワークに接続します。 |
| **6** | イーサネットポートインジケータランプ | ネットワーク接続の状態を確認します。<br>**メモ**<br>• 左側のライトは接続を示しています。<br>• 右側のライトはアクティビティを示しています。 |
| **7** | USB 2.0 HS ポート | フラッシュメモリなど、対応する USB デバイスを接続します。 |
| **8** | USB 3.0 SS ポート | • デバイスをコンピュータに接続して Embedded Web Server にアクセスし、オンデバイス設定を管理します。<br>• フラッシュメモリなど、対応する USB デバイスを接続します。 |
| **9** | HDMI ポート | ビデオとオーディオ信号を HDMI モニターに送信します。 |
| **10** | GPIO ポート | 入力、出力、またはその両方に使用される汎用インターフェイス。 |
| **11** | ヘッドフォンジャック | ヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。 |
| **12** | アンテナコネクタ | デバイスにアンテナを接続します。 |

# Optra VZ5100/VZ6100

**注意 — 破損の恐れあり**
データの損失やデバイスの誤動作を防ぐため、稼働中は USB ケーブルまたは以下のエリアのデバイスに触れないでください。




| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **1** | マイクジャック | マイクを接続します。 |
| **2** | ヘッドフォンジャック | ヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。 |
| **3** | イーサネットポート | デバイスをパブリックネットワークに接続します。 |
| **4** | AUX ポート | デバイスをプライベートネットワークに接続します。 |
| **5** | HDMI ポート | ビデオとオーディオ信号を HDMI モニターに送信します。 |
| **6** | USB Type-C ポート | フラッシュメモリなど、対応する USB デバイスを接続します。 |

| | 部品 | 機能 |
|---|---|---|
| **7** | USB 3.0 SS ポート | • デバイスをコンピュータに接続して Embedded Web Server にアクセスし、オンデバイス設定を管理します。<br>• フラッシュメモリなど、対応する USB デバイスを接続します。 |
| **8** | 電源ボタン | デバイスのオン/オフを切り替えます。 |
| **9** | ［セットアップ］ボタン | • Optra Portal でデバイスを登録します。ボタンを軽く押してください。<br>• デバイスを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。デバイスがオンのときに、電源ランプが短い間隔で点滅するまでボタンを押し続けてください。 |
| **10** | 1010 DIO ポート | デバイスをセンサー、リレー、インジケータなど、他のデバイスに接続します。 |
| **11** | RS-232/RS-485 ポート | このデバイスを、産業用/ファクトリーオートメーション制御機器など、シリアル通信に対応する他のデバイスに接続します。 |
| **12** | 電源アダプタポート | 同梱の電源アダプタをデバイスに接続し、正しく接地されているコンセントに差し込みます。 |

# 電源と設定ボタンのインジケータランプの状態について理解する

| 設定ボタンのランプ | 電源ボタンのランプ | デバイスの状態 |
|---|---|---|
| オフ | 点滅 | 起動またはシャットダウン |

| 設定ボタンのランプ | 電源ボタンのランプ | デバイスの状態 |
| --- | --- | --- |
| フリッカー（不規則な点滅） | | ハブへのネットワーク接続なし |
| 点滅 | 点滅 | 未登録 |
| 点滅 | オン | 登録中 |
| オン | | 登録済み |
| オフ | フリッカー（不規則な点滅） | 工場出荷時の設定に戻す |
| オン | 点滅 | ファームウェアを更新する |

# 設定、設置、構成

## Optra Compute 500/550/CX1000

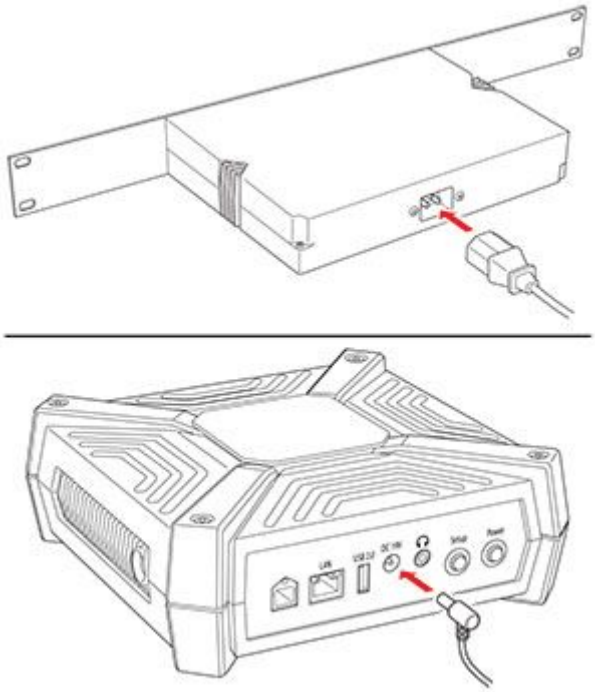
**メモ**

- Optra Compute CX1000 は壁面取り付けに対応しています。詳細については、デバイスの設定に進む前に 42ページの「」を参照してください を参照してください。
- ポート面を下に向けてデバイスを取り付けた場合は、ケーブルを接続するときにデバイスをしっかりと固定し、外れないようにしてください。

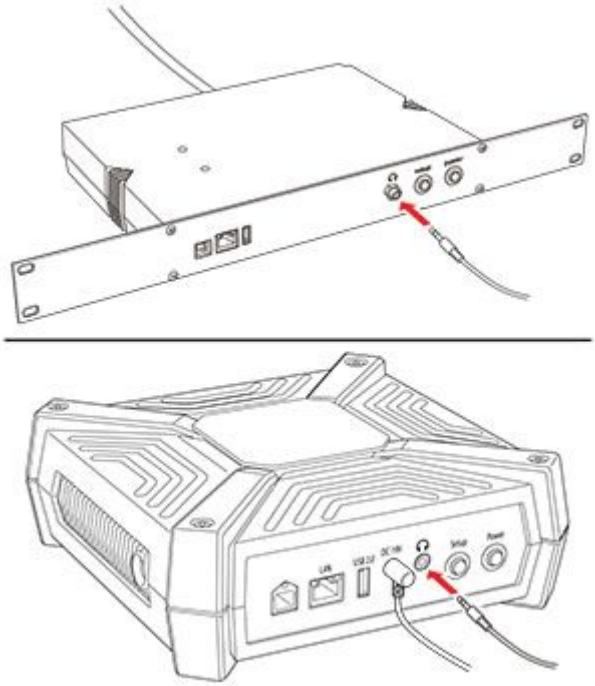
1. 電源コードの一方の端をデバイスに接続してから、もう一方の端をコンセントに差し込みます。

**警告 — けがの恐れあり**
火災や感電の危険を避けるため、電源アダプタや電源コードは製品の近くにあって定格が適切で、かつ正しく接地されているコンセントに接続します。

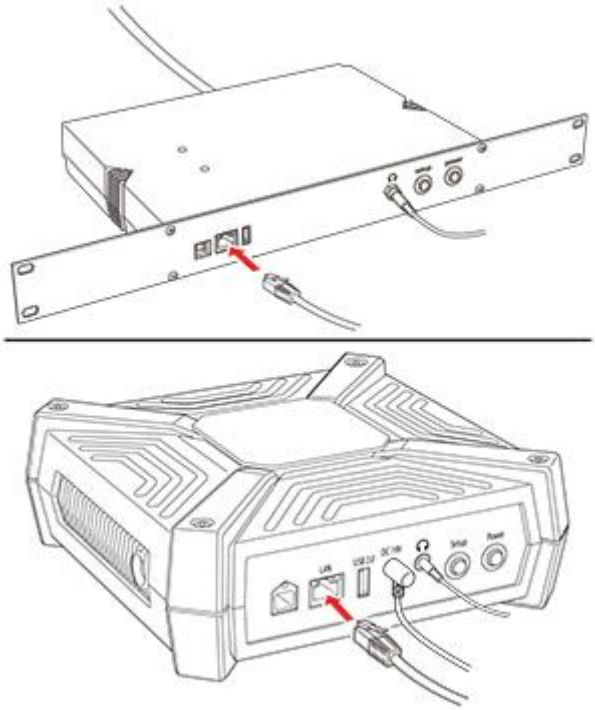
**警告 — けがの恐れあり**
火災や感電の危険を避けるため、電源コードが電源アダプタのポートやデバイス本体に完全に取り付けられていることを確認してください。



2. 必要に応じて、ヘッドフォンまたはスピーカーをヘッドフォンジャックに接続します。



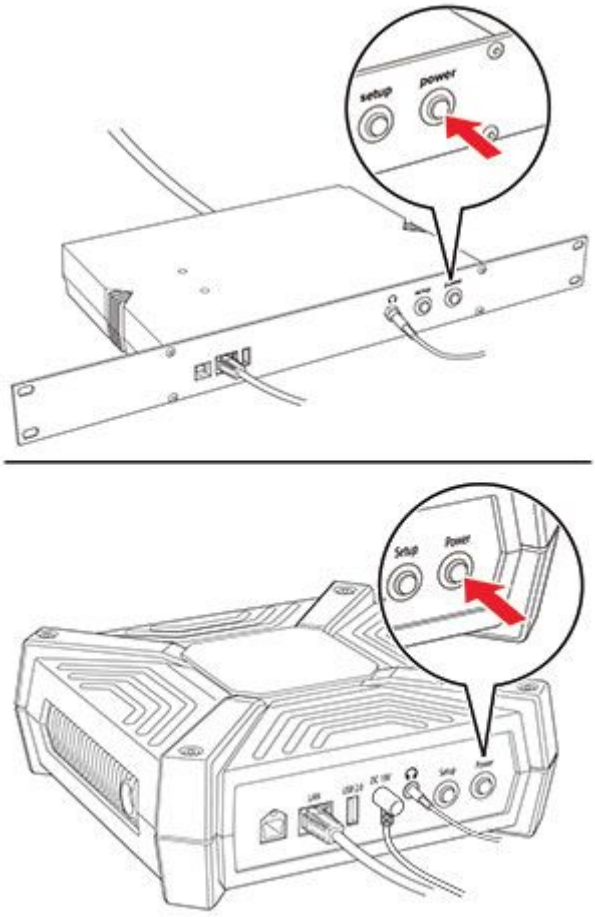
3. デバイスをローカルネットワークに接続します。



**メモ**

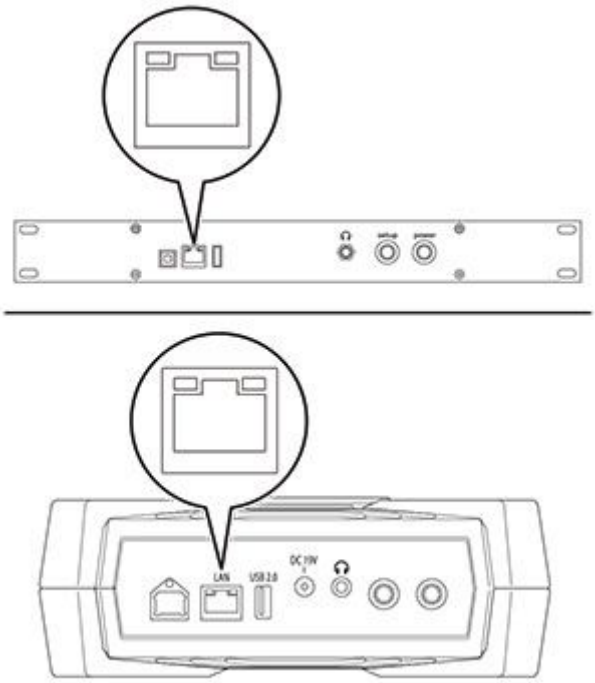
- Optra Compute 500/550 で利用可能な接続が Wi-Fi ネットワークのみの場合は、MarkNet™ ネットワークアダプタを購入して USB ポートに挿入してください。
- Optra Compute CX1000 は Wi-Fi を内蔵しています。

4. デバイスの電源をオンにします。



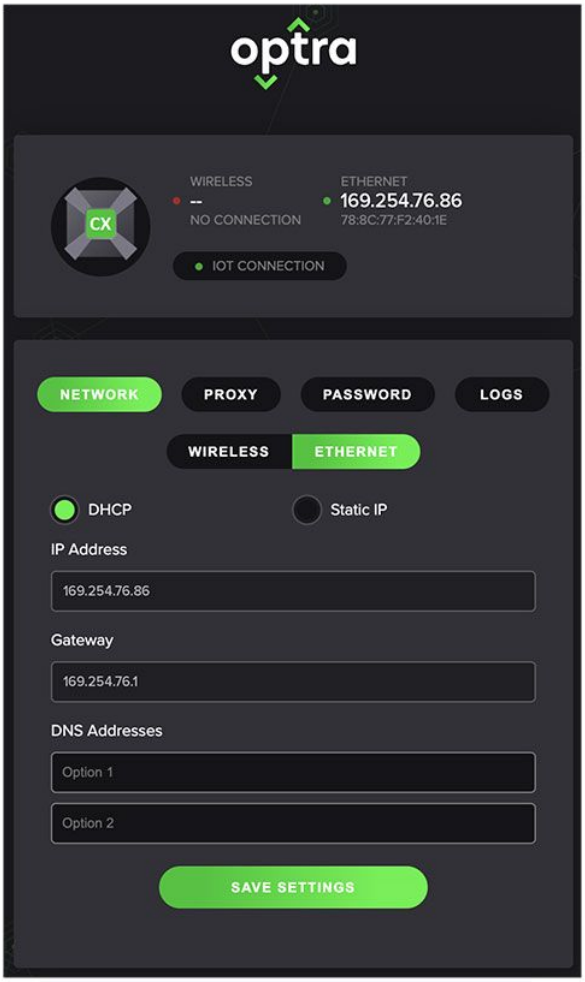

**メモ**
電源ランプが点滅し始め、イーサネットポートのインジケータランプが点滅してから消えて、再び点灯します。

5. イーサネット接続の場合は、イーサネットポートの右側のインジケータランプが短い間隔で点滅するまで待ちます。

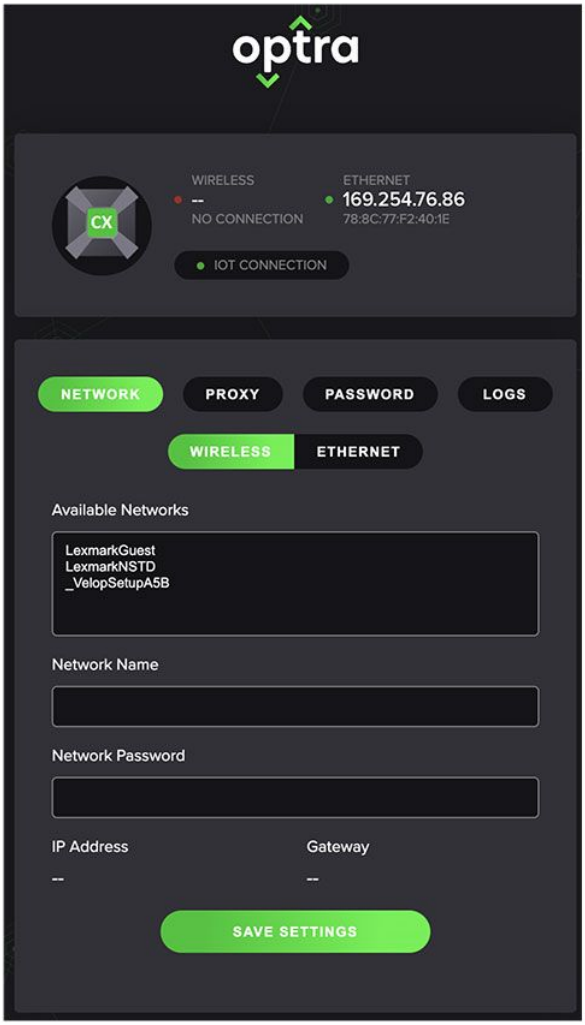



6. ネットワーク構成によっては、デバイスをポータルに接続する前にネットワークを構成する必要があります。

   **イーサネット接続の場合**



### Wi-Fi 接続の場合




**メモ**
ワイヤレス設定は、デバイスに MarkNet ネットワークアダプタを接続しているか、デバイスが Wi-Fi を内蔵している場合にのみ表示されます。

a. デバイスを USB デバイスポート経由でコンピュータに接続し、Embedded Web Server (EWS) にアクセスします。

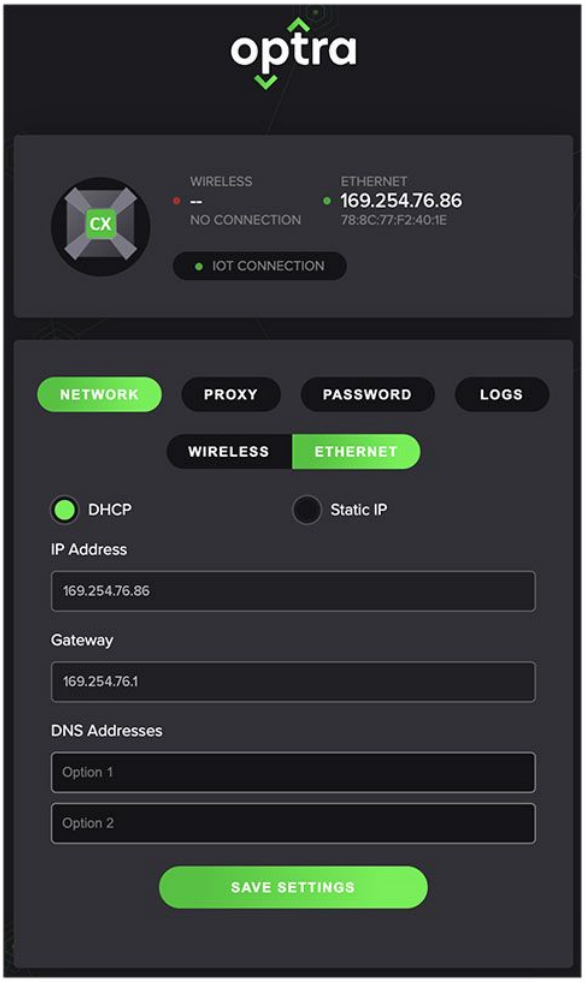
   **メモ**
   Windows 10 オペレーティングシステム（OS）を実行しているコンピュータを使用することをお勧めします。

b. Web ブラウザを開き、アドレスフィールドに「**169.254.76.86**」と入力します。

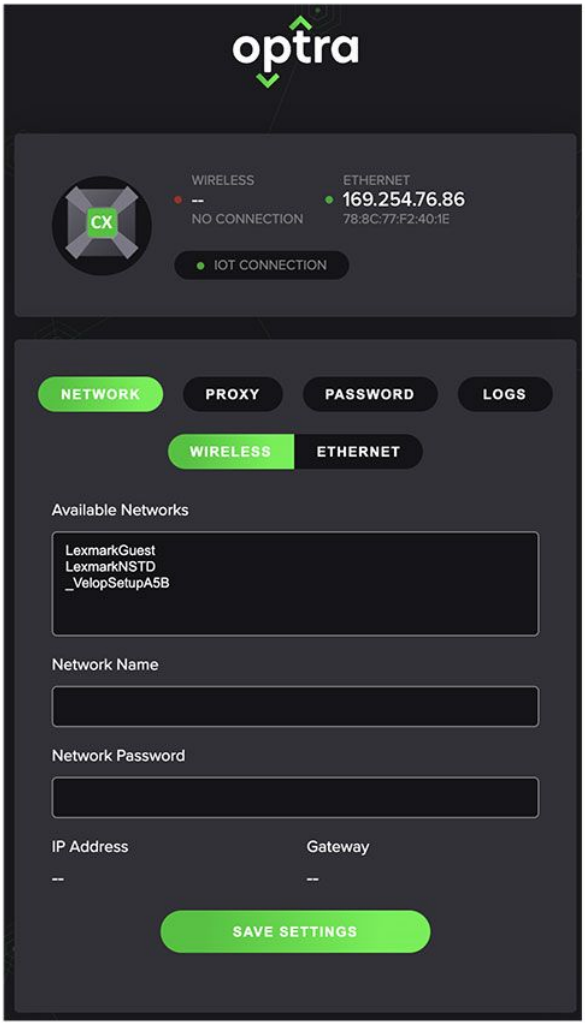
c. ［**パスワード**］をクリックして、デバイスのシリアル番号を入力します。

**メモ**
13 桁のシリアル番号は、Optra Compute 500/550 の前面または Optra Compute CX1000 の底面にあります。8080 で始まる番号です。

### イーサネット接続の場合




### Wi-Fi 接続の場合



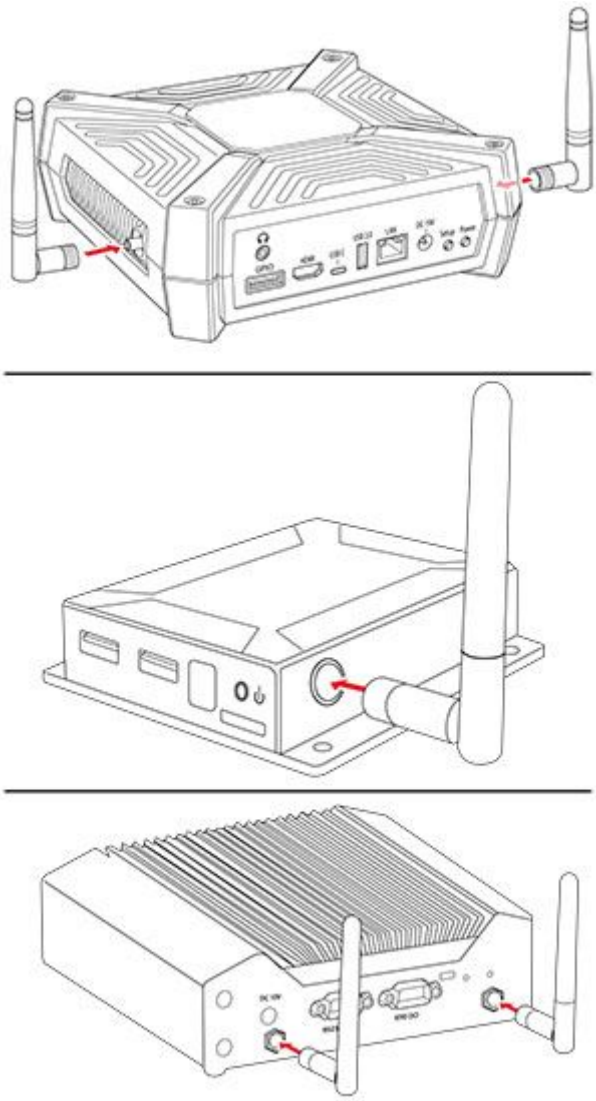

**メモ：**ワイヤレス設定は、デバイスに MarkNet ネットワークアダプタを接続しているか、デバイスが Wi-Fi を内蔵している場合にのみ表示されます。

# Optra Compute CX2000、Optra VZ1000/VZ5000/VZ5100/VZ6100

**メモ**

- このデバイスは壁面取り付けに対応しています。詳細については、デバイスの設定に進む前に 42ページの「」を参照してください を参照してください。
- ポート面を下に向けてデバイスを取り付けた場合は、ケーブルを接続するときにデバイスをしっかりと固定し、外れないようにしてください。

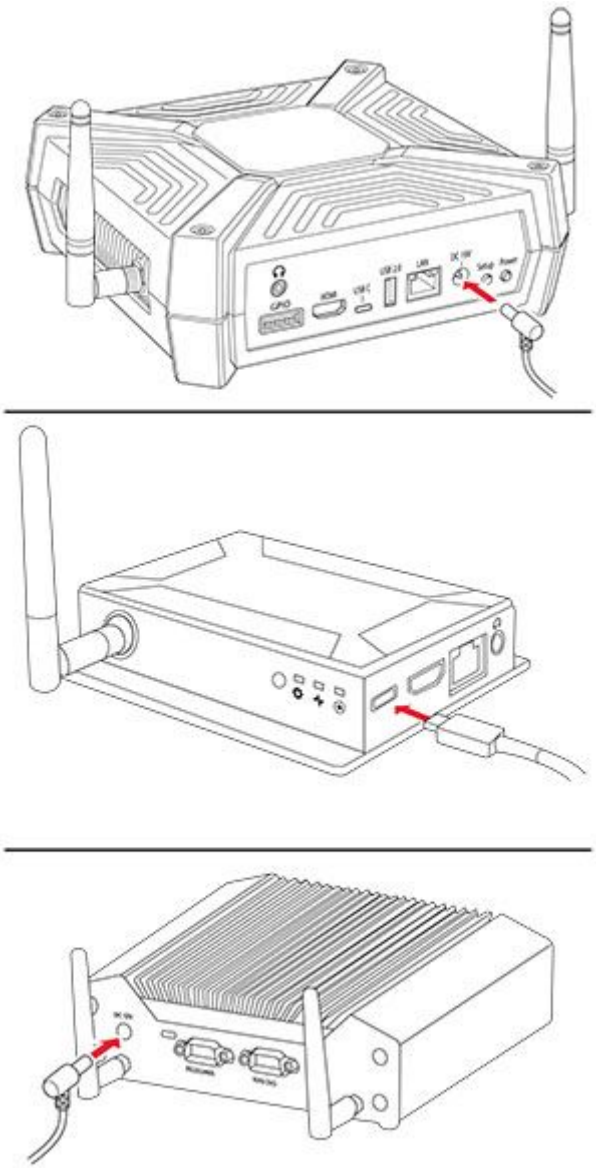
1. アンテナをデバイスの側面に接続します。



2. 電源コードの一方の端をデバイスに接続してから、もう一方の端をコンセントに差し込みます。

**警告 — けがの恐れあり**
火災や感電の危険を避けるため、電源アダプタや電源コードは製品の近くにあって定格が適切で、かつ正しく接地されているコンセントに接続します。

**警告 — けがの恐れあり**
火災や感電の危険を避けるため、電源コードが電源アダプタのポートやデバイス本体に完全に取り付けられていることを確認してください。



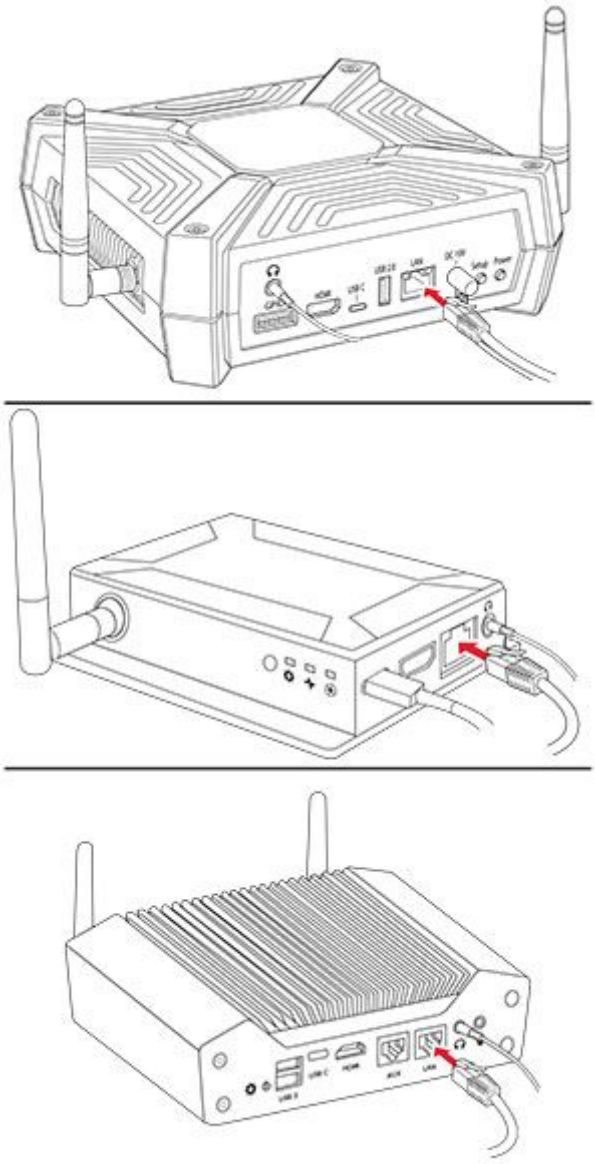
**メモ**

- Optra VZ1000 と Optra VZ5000 は Power over Ethernet（PoE）に対応しており、電源部の代わりにイーサネットケーブルを使用してデバイスに電力を供給できます。このモードを使用するには、ネットワークがデバイスに 30 ワットモードの Power over Ethernet（PoE+）で給電できることを確認してください。イーサネットケーブルを使用してデバイスをローカルネットワークに接続し、手順 3 をスキップします。後で使用する場合は、付属の電源アダプタを安全な場所に保管してください。
- ネットワークが PoE+ 以上に対応していない、または不明な場合は、付属の電源アダプタを接続します。

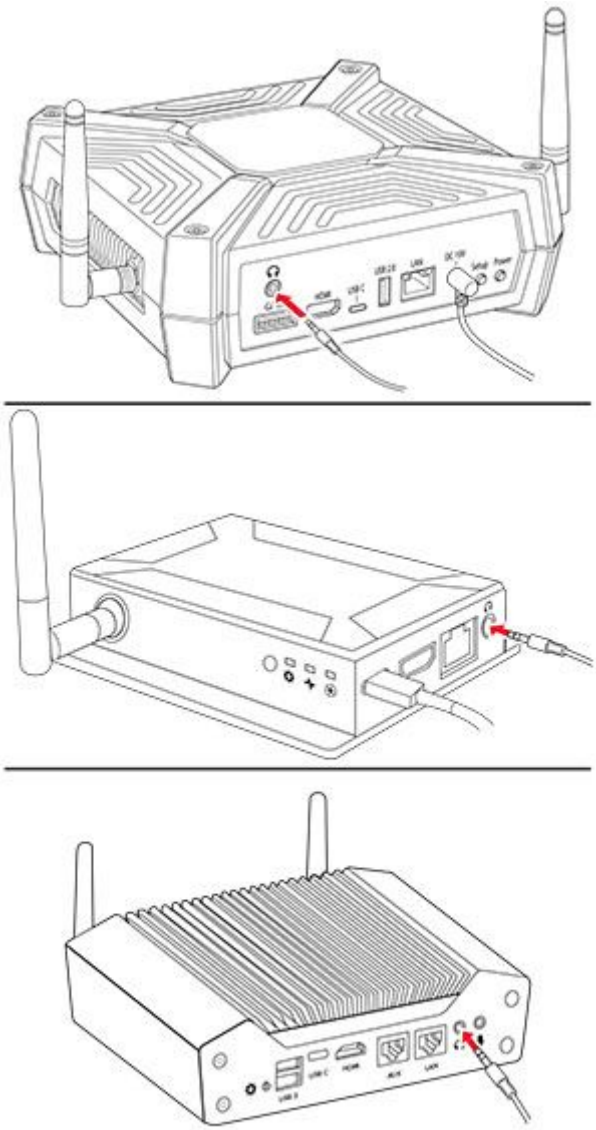
3. デバイスをローカルネットワークに接続します。

**メモ**

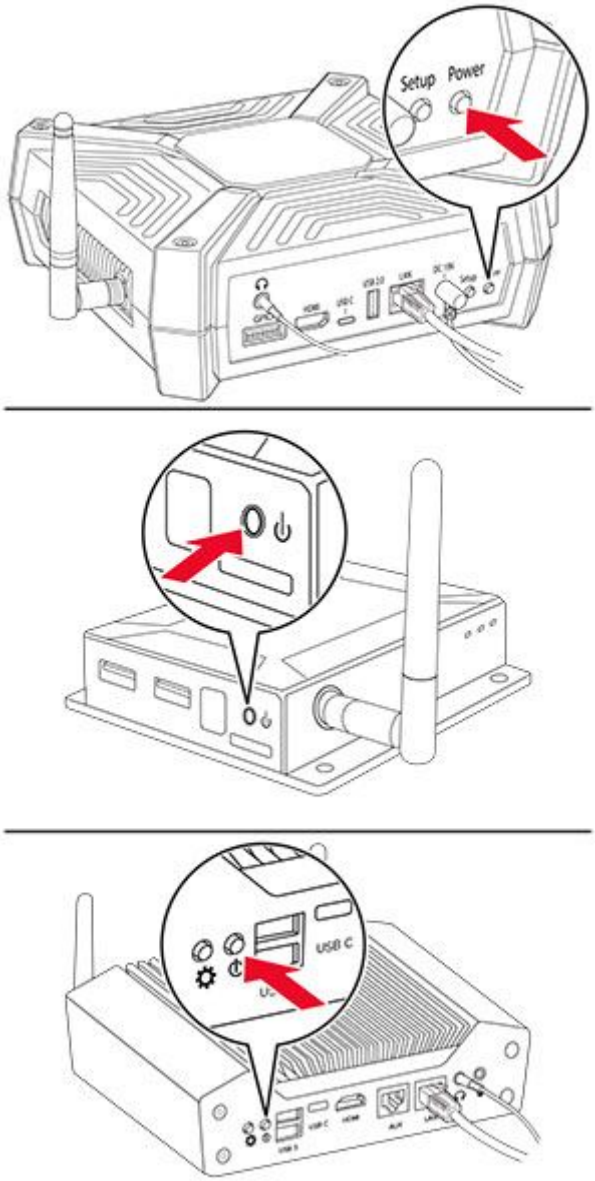
- このデバイスは Wi-Fi を内蔵しています。使用できるのが有線接続のみの場合は、イーサネットケーブルを接続してください。
- PoE を使用してデバイスを接続している場合は、この手順をスキップします。



4. 必要に応じて、ヘッドフォンまたはスピーカーをヘッドフォンジャックに接続します。

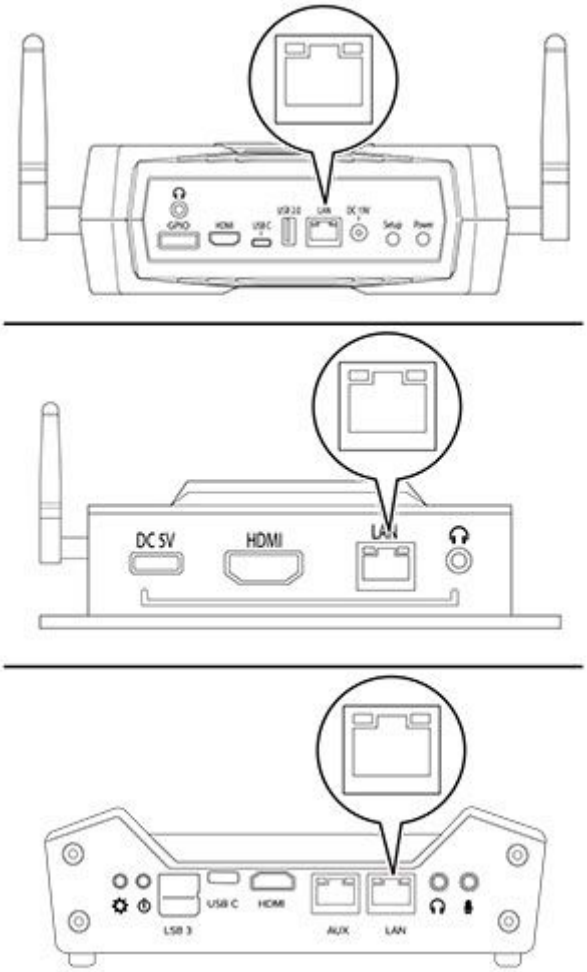


5. デバイスの電源をオンにします。



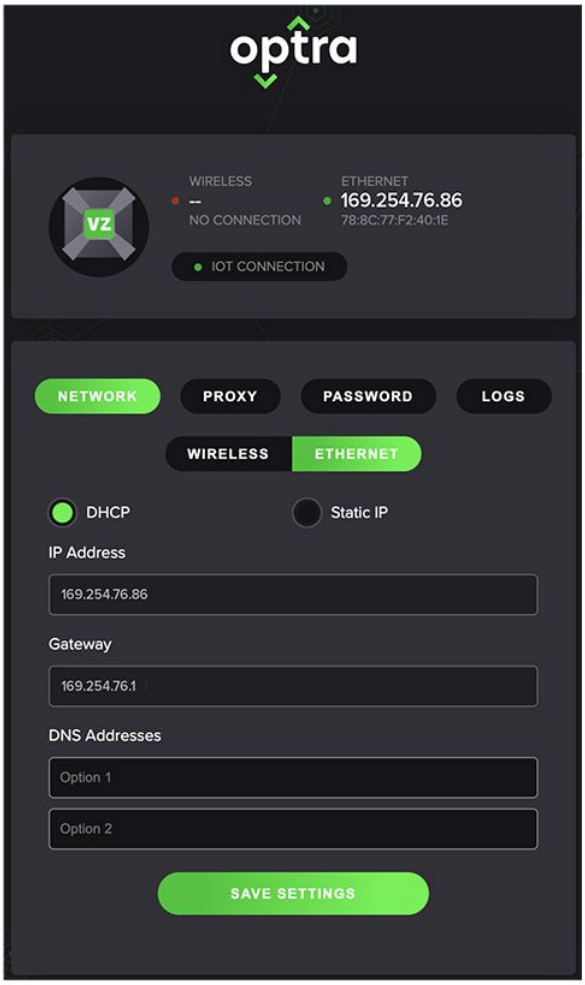

**メモ**
電源ランプが点灯するか点滅し始め、イーサネットポートのインジケータランプが点滅してから消えて、再び点灯します。

6. イーサネット接続の場合は、イーサネットポートの右側のインジケータランプが短い間隔で点滅するまで待ちます。

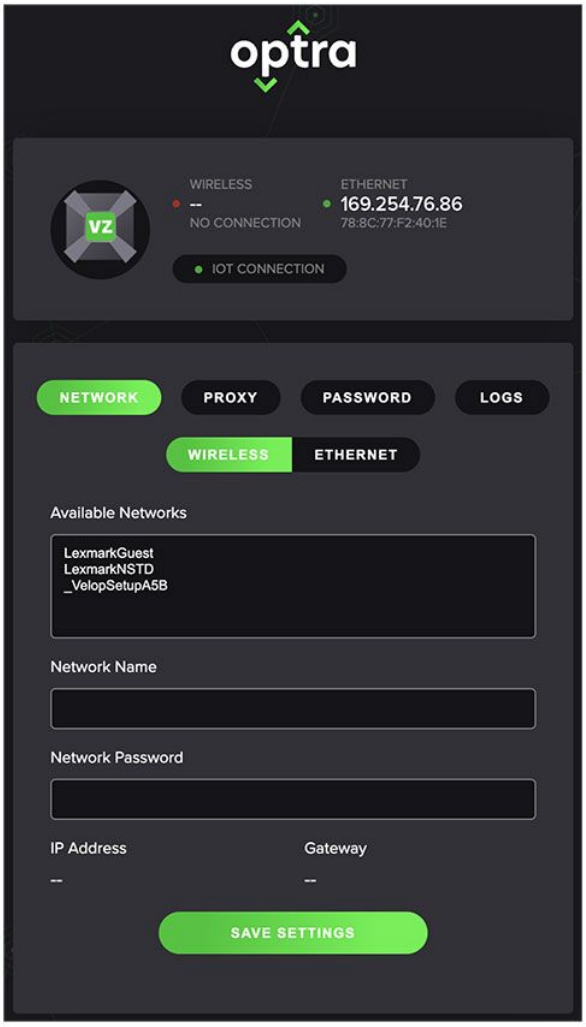



7. ネットワーク構成によっては、デバイスをポータルに接続する前にネットワークを構成する必要があります。

   **イーサネット接続の場合**


optra
WIRELESS
--
NO CONNECTION
ETHERNET
169.254.76.86
78:8C:77:F2:40:1E
IOT CONNECTION
NETWORK
PROXY
PASSWORD
LOGS
WIRELESS
ETHERNET
DHCP
Static IP
IP Address
169.254.76.86
Gateway
169.254.76.1
DNS Addresses
Option 1
Option 2
SAVE SETTINGS

**Wi-Fi 接続の場合**




a. デバイスを USB Type-C デバイスポート経由でコンピュータに接続し、Embedded Web Server にアクセスします。

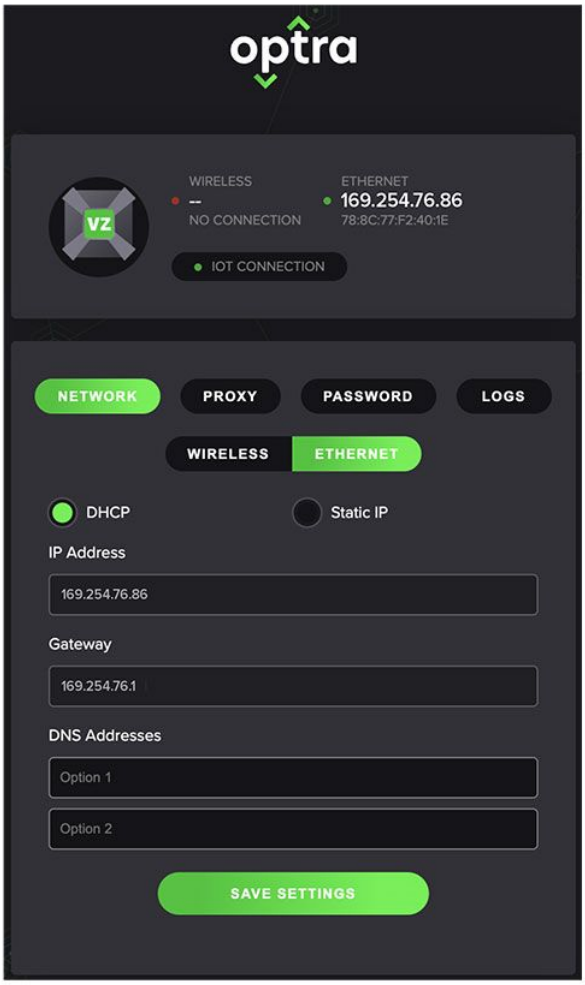
> **メモ：**Windows 10 オペレーティングシステム（OS）を実行しているコンピュータを使用することをお勧めします。

b. Web ブラウザを開き、アドレスフィールドに「**169.254.76.86**」と入力します。

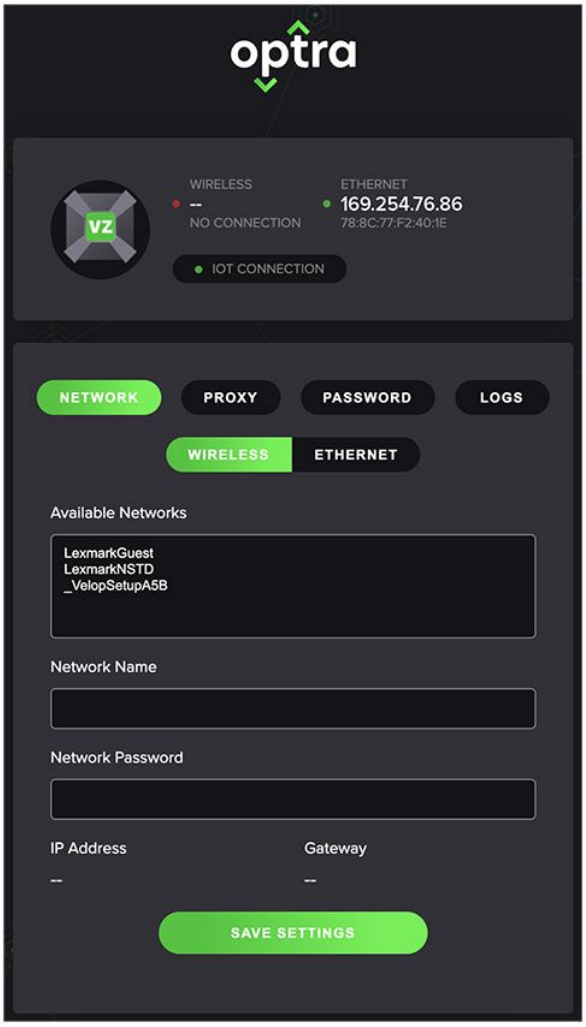
c. ［**パスワード**］をクリックして、デバイスのシリアル番号を入力します。

> **メモ：**13 桁のシリアル番号はデバイスの底面に記載されています。8080 で始まる番号です。

### イーサネット接続の場合


optra
WIRELESS
--
NO CONNECTION
ETHERNET
169.254.76.86
78:8C:77:F2:40:1E
IOT CONNECTION
NETWORK
PROXY
PASSWORD
LOGS
WIRELESS
ETHERNET
DHCP
Static IP
IP Address
169.254.76.86
Gateway
169.254.76.1
DNS Addresses
Option 1
Option 2
SAVE SETTINGS

**Wi-Fi 接続の場合**




# アウトバウンドネットワーク要件

デバイスが正常に動作するには、以下のURLとポートにアクセスする必要があります。

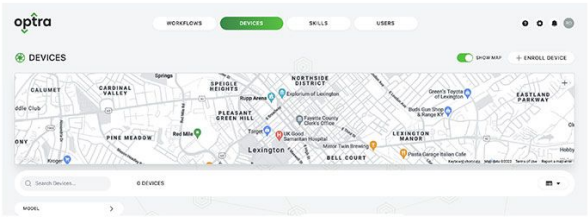
| 要件 | URL | ポート |
|---|---|---|
| Azure IoT ハブ | optra-release.azure-devices.net | 443 |
| Azure デバイス プロビジョニング サービス | global.azure-devices-provisioning.net | 443 |
| Microsoft Container Registry | mcr.microsoft.com | 443 |
| Azure Container Registry | optrarelease.azurecr.io | 443 |
| Blob ストレージから Azure Container Registry のイメージデルタをダウンロード | *.blob.core.windows.net | 443 |
| 更新時にファームウェアをダウンロード | bucket.optra.com | 443 |
| リモート診断用のアプリケーションログアップロードサービス | logsene-journald-receiver.sematext.com | 443 |

| 要件 | URL | ポート |
| --- | --- | --- |
| ネットワークタイムプロトコル | time1.google.com | 443 |
| ネットワークタイムプロトコル | time2.google.com | 443 |
| ネットワークタイムプロトコル | time3.google.com | 443 |
| ネットワークタイムプロトコル | time4.google.com | 443 |
| Optra Skills Web UI | *.optra.io | 443 |

# Optra Portal の使用

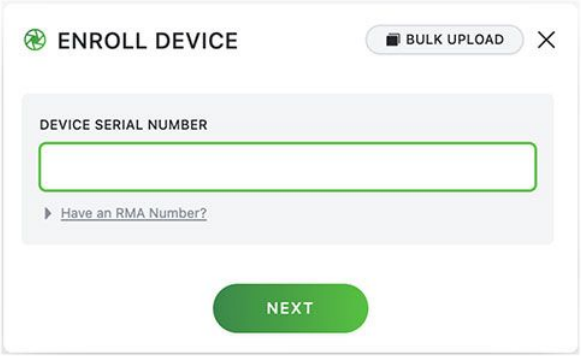
## Optra Portal でのデバイス登録

1. Web ブラウザを開き、https://portal.optra.com にアクセスします。
2. アカウントを作成するか、ログインします。
3. ［**デバイス**］タブをクリックしてから、［**デバイス登録**］をクリックします。



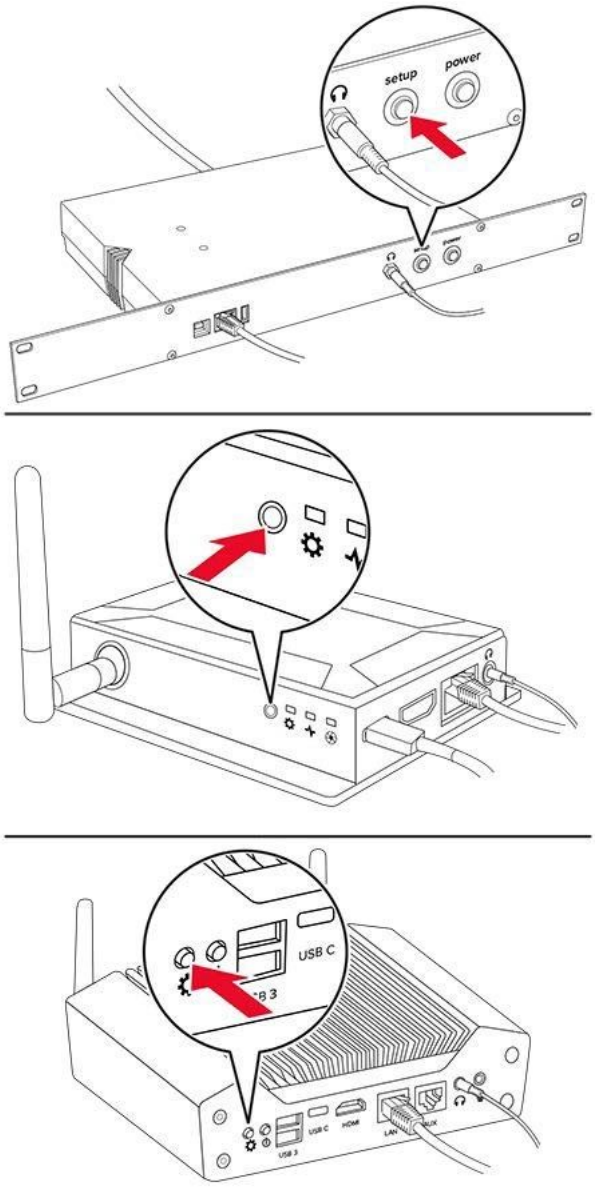

4. デバイスのシリアル番号を入力します。

> **メモ：**13 桁のシリアル番号はデバイスの前面または底面に記載されています。8080 で始まる番号です。

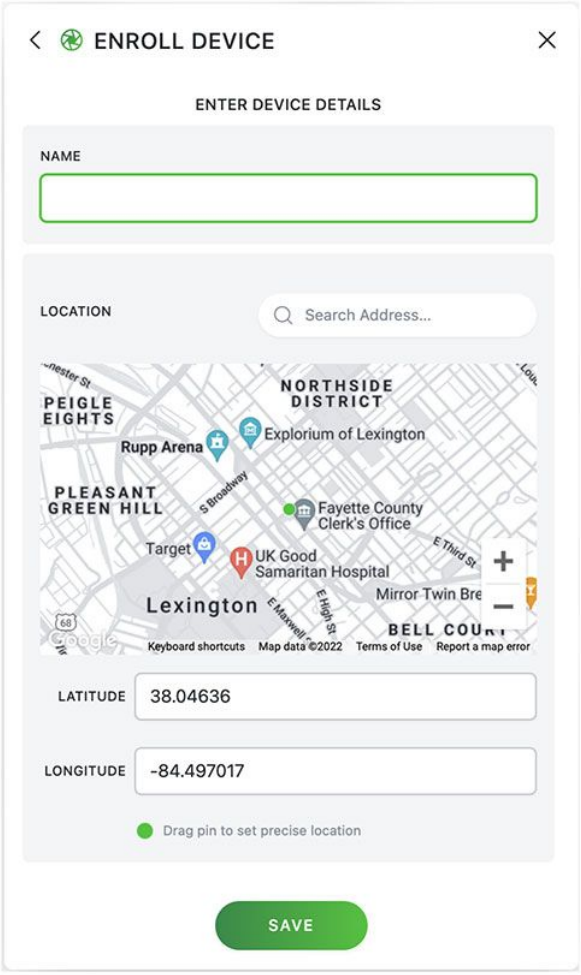



5. デバイスで設定ボタンを長押しします。

> **メモ：**デバイスの登録中は、設定ボタンまたはそのインジケータランプが点滅します。



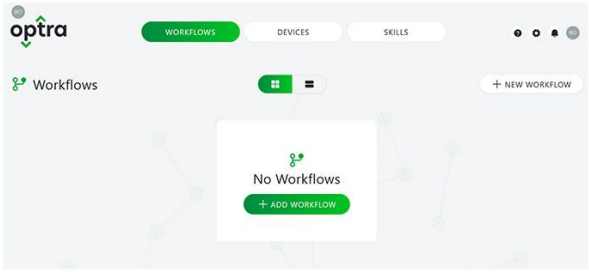

6. デバイスに名前を割り当ててから、デバイスがマップに表示されるように場所を入力します。



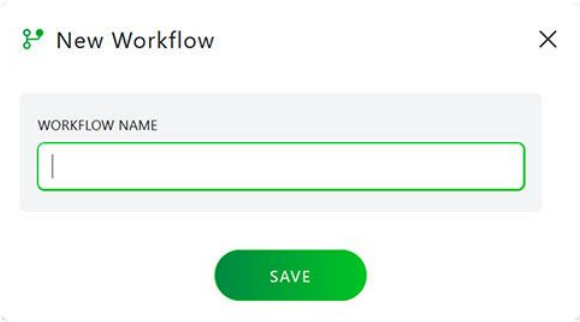

7. ［**保存**］をクリックします。

# ワークフローの追加とスキルの展開

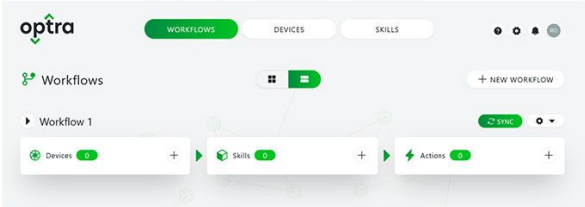
1. Optra Portal で［**ワークフロー**］タブをクリックしてから、［**新しいワークフロー**］をクリックします。




2. ワークフロー名を入力し、［**保存**］をクリックします。




3. デバイス、スキル、アクションをワークフローに追加します。




> **メモ：**スキル設定をアップロードすることもできます。

4. 操作パネルディスプレイの右上隅にある［**SYNC**］をクリックし、デバイスでワークフローを展開して実行します。

> **メモ：**ワークフローの複製や削除もできます。ワークフローを削除するには、**設定 › 削除** をクリックします。

# トラブルシューティング

## ポータルに接続できません

次の手順を 1 つ以上実行します。

- ネットワーク接続が動作しているかどうかを確認します。
- ケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。
- サポート対象のブラウザを使用しているかどうか確認します。
    - Apple Safari、Google Chrome™、またはMozilla Firefoxの最新バージョンを使用してください。
- ユーザー資格情報が正しいことを確認します。
- アカウントのメールアドレスがOptra Portal組織に関連付けられていることを確認します。
    - 詳細については、管理者に問い合わせるか、組織アカウントを作成した担当者にお問い合わせください。
- 関連するデバッグ情報については、デバイスログを参照します。
    - ［デバイス］タブでデバイス名を選択し、［デバイスの構成］ページで［**ログの表示**］をクリックします。

サポート連絡先情報については、www.optra.com をご覧ください。

## デバイスを登録できません

次の手順を 1 つ以上実行します。

- デバイスの電源がオンになっていることを確認します。
- ケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。
- ネットワーク接続が動作しているかどうかを確認します。
- インジケータランプが点滅するのを待ってからデバイスの登録を進めます。
- サポート対象のブラウザを使用しているかどうか確認します。
    - Apple Safari、Google Chrome™、またはMozilla Firefoxの最新バージョンを使用してください。
- ユーザー資格情報が正しいことを確認します。
- デバイスのシリアル番号を正確に入力します。
- デバイスの状態が登録中であることを確認します。
    - デバイスを起動した後、設定ボタンを 5 秒間長押ししてください。
- デバイスが既に登録されていないことを確認します。
    -
    -
- サポート連絡先情報については、www.optra.com をご覧ください。

# スキルを展開できません

次の手順を 1 つ以上実行します。

- ケーブルがしっかりと接続されていることを確認します。
- ネットワーク接続が動作しているかどうかを確認します。
- デバイスがオンラインであり、ネットワーク要求に応答していることを確認します。
    - ［デバイス］タブで、デバイス名の横にあるチェックボックスを選択し、［**PING**］をクリックします。次に、デバイス名を選択し、［デバイスの構成］ページで［**ログの表示**］をクリックします。
- 少なくとも1つのデバイスと1つのスキルをワークフローに追加します。
- ワークフローを同期していることを確認します。
    - ［ワークフロー］タブで、［**SYNC**］をクリックします。
- デバイスのストレージがいっぱいになっていないことを確認します。
    - ［デバイス］タブで、［ディスク］列の下にあるデバイスのディスク使用量レベルを確認します。
- 必要なスキル設定情報がすべて入力され、スキルが有効になっていることを確認します。
- 関連するデバッグ情報については、デバイスログを参照します。
    - ［デバイス］タブでデバイス名を選択し、［デバイスの構成］ページで［**ログの表示**］をクリックします。

サポート連絡先情報については、www.optra.com をご覧ください。

# 追加設定

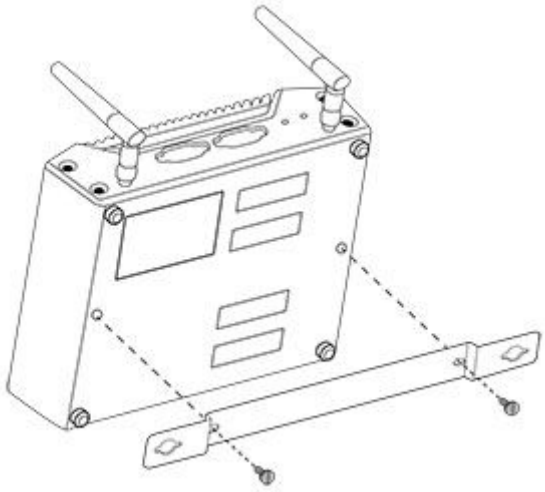
## デバイスを壁に取り付ける

**メモ：**本手順は、Optra Compute CX1000/CX2000、Optra VZ1000/VZ5000/VZ5100/VZ6100のみに適用されます。

1. 建物内の壁面でデバイスを取り付ける場所を決めます。

   **メモ：**デバイスの周囲に十分なスペースがあることを確認します。

2. Optra VZ5100/VZ6100の場合は、取り付けブラケットをデバイスに取り付けます。
   a. T-10 トルクスドライバーを使用して、デバイスの底部にある 2 本の固定用ネジを取り外します。
   b. 取り付けブラケットのスロットをデバイスの穴に合わせてから、その 2 本のネジを取り付けます。

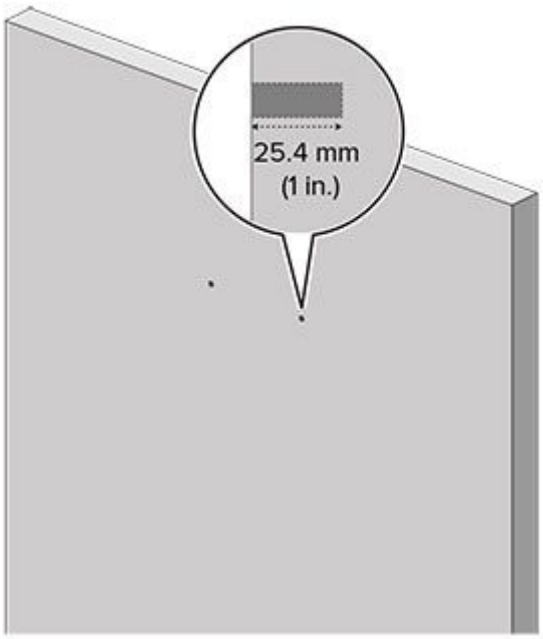


   **メモ：**デバイス底部にあるゴム足の隙間を確保できるように、ブラケットは正しい向きで取り付ける必要があります。

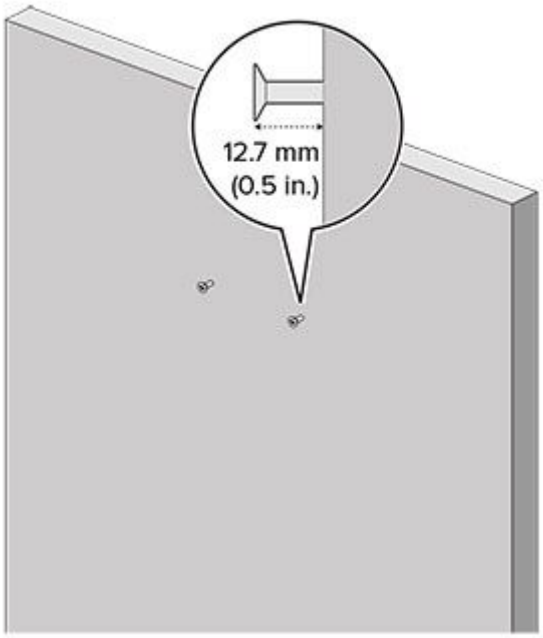
3. デバイスを壁に仮当てして、デバイスの穴に合わせて壁に開ける 2 つの穴の位置に印を付けます。

   **メモ：**Optra Compute CX2000 の場合は、四隅にある穴を使ってデバイスを取り付けることもできます。この穴には #4 または M4 ネジが必要です。

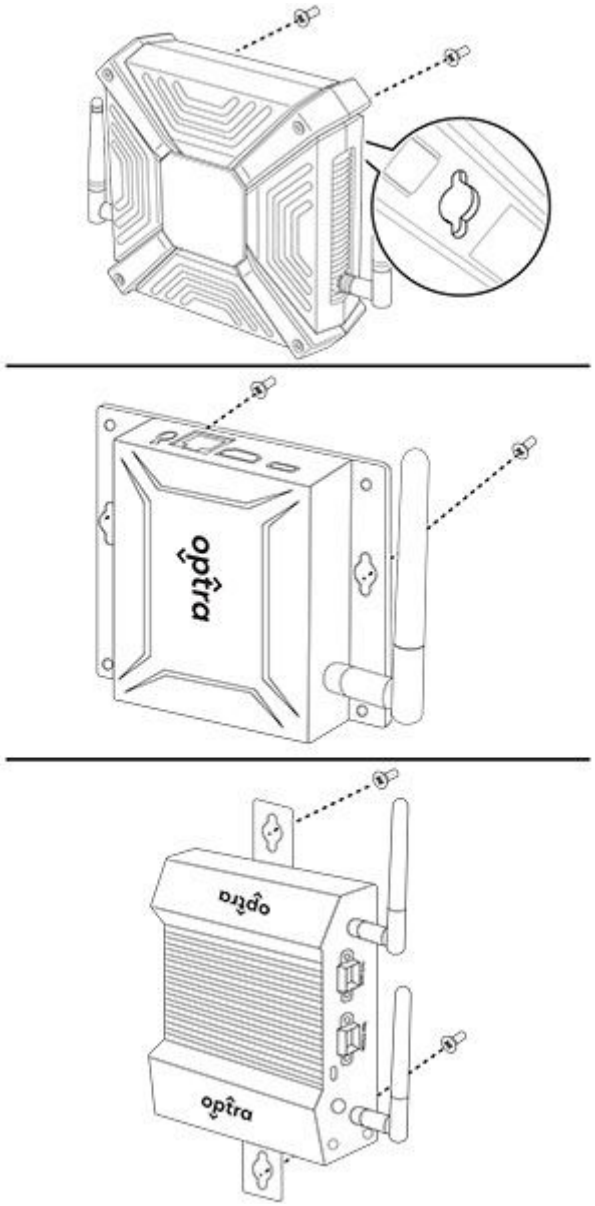
4. 壁に印を付けた場所で、深さ約 1 インチの穴を開けます。



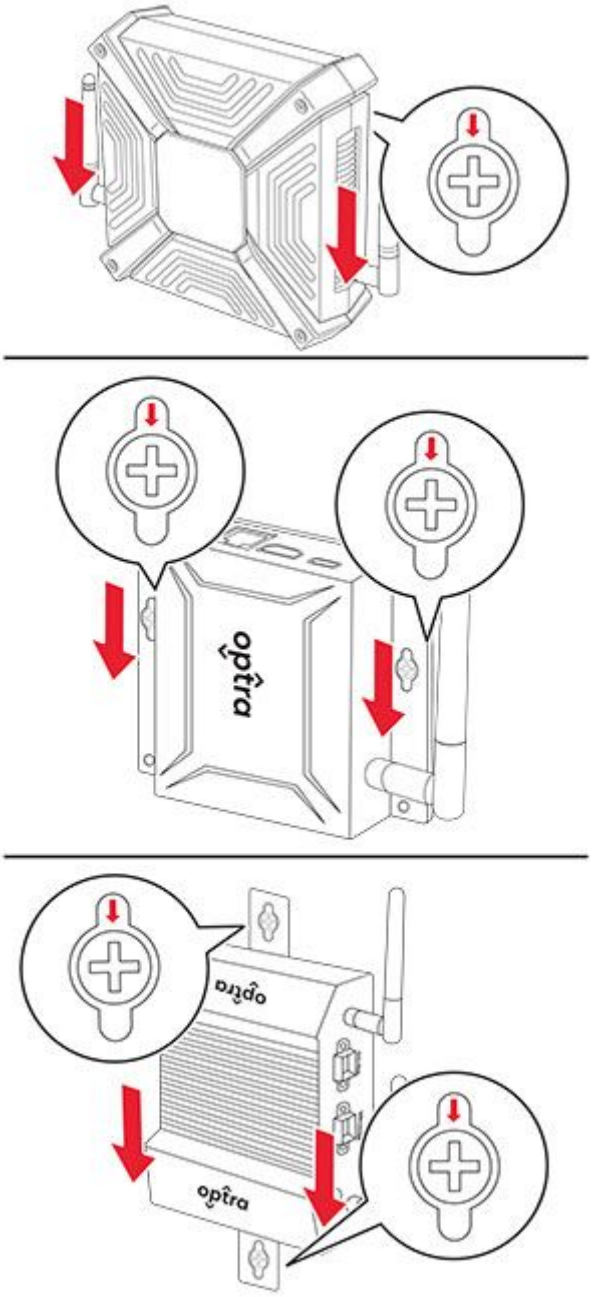

5. 長さ 1.5 インチの標準的な #6 木ネジを穴に取り付け、ネジの先端が約 0.5 インチほど突き出したままにします。Optra Compute CX2000 の場合は、標準的な #4 の木ネジを使用します。




6. デバイスの底面にある穴をネジの頭に合わせます。ゴム足が壁に接触するまでデバイスを押します。




7. デバイスを下にスライドさせてネジを垂直スロットに固定します。


optra
optra
optra

# 通知

## 製品情報

製品名：

Optra Compute 500/550、Optra Compute CX1000/CX2000、Optra VZ1000/VZ5000/VZ5100/VZ6100
機種タイプ：

8080
モデル：

001, 002, 003, 004

## 改訂通知

### 改訂通知

2025 年 8 月
**以下の規定が現地法と矛盾する地域では、以下の段落は適用されません。** LEXMARK INTERNATIONAL, INC. は、本書を「現状のまま」いかなる保証もなしに提供します。特定の目的への適合またはその目的での商品価値の暗示的な保証はもとより、明示的と暗示的とによらずいかなる保証も致しません。管轄地域によっては、特定の取引に際して明示的および暗示的保証からの免責宣言が禁止されているため、この条文が適用されない可能性があります。
この文書には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれている可能性があります。ここに記載されている内容の改訂は定期的に行っており、改訂結果は今後の版に反映されます。記述されている製品やプログラムは、いつでも改良、変更されることがあります。
本文書中で言及されている製品、プログラム、またはサービスがすべての国で入手可能であるとは限りません。特定の製品、プログラム、またはサービスについて言及している場合であっても、それらの製品、プログラム、またはサービスのみが使用できるという意味ではありません。既存の知的所有権に抵触しない限り、機能的に同等な製品、プログラム、またはサービスを代用できます。弊社製品と組み合わせて他の製品、プログラム、またはサービスを使用する際の評価および試験は、製造者により明示されているもの以外はユーザーの責任とします。
Lexmark テクニカルサポートを参照するには、https://portal.optra.com/help にアクセスしてください。
本製品の使用に関する Lexmark のプライバシーポリシーの詳細については、www.lexmark.com/privacy にアクセスしてください。
© 2020 Lexmark International, Inc.
**All rights reserved.**

### 商標

Lexmark、Lexmark ロゴ、Optra、MarkNet は、米国およびその他の国における Lexmark International, Inc. の商標または登録商標です。
Google Chrome は Google LLC の商標です。
Microsoft、Windows、Azure は、Microsoft グループの商標です。
Apple and Safari are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
その他すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

# 包装の環境ラベル

委員会規則決定 97/129/EC および立法令 152/2006 により、製品パッケージには以下のシンボルのうち 1 つ以上を含めることができます。

| | |
|---|---|
| | このシンボルは、パッケージに段ボールが含まれている可能性があることを示します。 |
| | このシンボルは、パッケージに段ボール以外の板紙が含まれている可能性があることを示します。 |
| | このシンボルは、パッケージに紙が含まれている可能性があることを示します。 |

詳細については、www.lexmark.com/recycle で、お住まいの国と地域を選択してください。利用可能な梱包材リサイクルプログラムに関する情報は、製品リサイクルに関する情報の中に含まれています。

# 製品の廃棄

# Lexmark 製品のリサイクルプログラム

**メモ：**Lexmark 回収プログラムの一覧にない機器の場合でも、地元のリサイクルセンターでリサイクルできる場合があります。

1. www.lexmark.com/recycle にアクセスします。
2. 国または地域を選択してください。
3. 回収プログラムを選択してください。

# Lexmark 製品の梱包材をリサイクルする

Lexmark は梱包材を最小限に抑えるよう絶えず努力しています。より少ない梱包材により、Lexmark 製品は最も効率的で、かつ環境に配慮した方法で輸送され、梱包材の廃棄量の削減に貢献しています。これらの努力は、温室効果ガスのより少ない排出、省エネルギー、天然資源の節約をもたらします。また、Lexmark では、一部の国と地域で梱包材のリサイクルも行っています。詳細については、www.lexmark.com/recycle で、お住まいの国と地域を選択してください。利用可能な梱包材リサイクルプログラムに関する情報は、製品リサイクルに関する情報の中に含まれています。
Lexmark のダンボール箱と紙の内容物は、再生利用する施設がある地域では100%リサイクル可能です。その施設は、お住まいの地域にない可能性があります。
Lexmarkの包装に使用されるプラスチック部品（発泡体や袋など）は、発泡体のリサイクル施設が存在する場所でリサイクル可能です。その施設は、お住まいの地域にない可能性があります。

# ワイヤレス製品に関する規制通知

このセクションに記載されている規制情報はワイヤレスモデルにのみ適用されます。
お使いのモデルがワイヤレスモデルかどうか不明な場合は、 *ユーザーズガイド*を参照してください（https://portal.optra.com/help）。

# モジュールコンポーネントに関する通知事項

ワイヤレスモデルには、以下のモジュールコンポーネントが搭載されています。
AzureWave Technologies, Inc.モデル：AW-CM276NF、FCC ID:TLZ-CM276NF、IC:6100A-CM276NF
お使いの製品に搭載されているモジュールコンポーネントを確認するには、実際の製品に貼付されているラベルを参照してください。

# 無線周波数の放射への暴露

このデバイスから放射される出力電力は、FCC およびその他の規制当局が定める無線周波数暴露制限を大幅に下回っています。このデバイスが FCC およびその他の規制当局の RF 暴露要件に適合するには、アンテナと人体の間の最低距離 20cm（8インチ）が確保される必要があります。

# 複数のモデル情報

次の情報は、500/550、CX1000、VZ1000/VZ5000/VZ5100/VZ6100 にのみ適用されます。

# 日本の VCCI 規定

製品にこのラベルが表示されている場合、
次の要件を満たしています。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

この装置は，クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCIーA

# 電波障害について

**注意**
本製品は、EN 55032 のクラス A 制限の放射要件および EN 55035 の電磁波耐性要件に準拠しています。本製品は、住宅環境での使用を目的としていません。
本製品はクラス A 製品です。本製品を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こす場合があります。この場合には使用者が適切な対策を講じる必要があります。

# モデル固有の情報

次の情報は、CX2000 にのみ適用されます。

# 日本の VCCI 規定

製品にこのマークが表示されている場合、次の要件を満たしています。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

# ユーザーズガイド